

# 『一遍上人語録』所収和歌 語彙総索引稿

金子 彰編

## 凡例

一、本総索引稿は、『一遍上人語録』（底本は、文化八年版本）所収の六十六首の和歌本文に用いられている総ての語（詞書きは採録しない）を、大橋俊雄編『法然 一遍』（日本思想大系10、岩波書店、一九七二）に基づいて収めたものである。

一、和歌本文篇は、『一遍上人語録』所載の和歌本文を採録し、各歌番号を附して示した。

一、語彙総索引篇は、以下の通りに掲載した。

一、見出し語について

1、見出し語は、平仮名で歴史的仮名遣（字音語は字音仮名遣）を原則に統一した。

a、和語・漢語は底本の濁点に従うことを原則とした。

b、漢字の読み方は呉音を原則とした。

2、排列は、最終音節までの五十音順とした。

3、参照項目を設け、複合語の下位要素からも検索できるようにした。又、接頭語、接尾語も空見出しとし、そこからその要素を含む単語を本項目として参照することが出来るようにした。

4、見出し語は、単語を原則とした。

a、動作性の漢語にサ変動詞「す」の付いた形は、一語として扱った。

b、状態性の漢語に「なり」の付いた形は、二語として、漢語に助動詞「なり」の付いた形として扱った。但し、和語を語幹とする所謂形容動詞は、一語として認めた。

一、和歌本文の用例について

1、用例は、底本『日本思想大系10』の表記様式に従って掲出した。

2、用例の引用は、以下の通りとした。

a、自立語・付属語とも、原則として当該語のみを示した。

b、但し、活用語は、その用法に応じて下接語(又は語句)も示した。

3、用例の所在は、算用数字で、当該歌番号を示した。

4、用例の排列基準の主なもの、以下の通りとした。

a、無活用語は、出現順に排列した。

b、活用語は、未然形・連用形・終止形・連体形・已然形・命令形の順に排列した。

c、同一単語で用例の表記が全く同じ場合には、初出例の下にまとめて示した。

#### 和歌本文篇

1 つの国やなにはも法のことの葉はあしかりけりとおもひしるべし

2 跡もなき雲にあらそふこゝろこそなかく月のさはりとはなれ  
3 ふればぬれぬるればかはく袖のうへを雨とていとふ人ぞはかなき

4 雲となるけぶりなたてそあまのはらつきはおのれとかすむものかは

5 ゆく人を弥陀のちかひにもらさじと名をこそとむれしら川のせき

6 はかなしやしばしかばねの朽ぬほど野はらの土はよそに見えけり

7 世の中をすつる我身も夢なればたれをかすてぬ人と見るべき  
8 身をすつるすつる心をすてつればおもひなき世にすみ染の袖

9 のこりゐてむかしを今とかたるべきこゝろのはてをしる人ぞなき

10 さけばさきちるはをのれと散はなのことほりにこそ身は成にけれ

11 花はいろ月はひかりとながむればこゝろはものを思はざりけ

り

12 曇なき空はもとよりへだてねばこゝろぞ西にふくる月かけ  
13 こゝろをば西にかけひのながれゆく水の上なるあはれ世の中  
14 おしめどもつゐに野原に捨てけりはかなかりける人のはてかな  
15 皮にこそおとこをんなのいろもあれ骨にはかはるひとかたも  
なし  
16 はねばはね踊らばをどれ春駒ののりの道をばしる人ぞしる  
17 とものはねよかくてもをどれ心ごま弥陀の御法と聞ぞうれしき  
18 こゝろよりこゝろをえんと意得て心にまよふこゝろ成けり  
19 すてやらでこゝろと世をば歎きけり野にも山にもすまれける  
身を  
20 捨てこそ見るべかりけれ世の中をすつるも捨ぬならひ有とは  
21 おもひしれうき世の中にすみぞめの色々しきにまよふこゝろを  
22 こゝろをばいかなるものとしらねども名をとなふればほとけ  
にぞなる  
23 法の道かちよりゆくはくるしきにちかひの舟にのれやもろ人  
24 おしむなよまよふこゝろの大江山いく野の露と消やすき身を  
25 こゝろからながるゝ水をせきとめてをのれと淵に身をしづめ  
けり  
26 みな人のことありがほに思ひなすこゝろはおくもなかりける

もの

27 心をばこゝろの怨とこゝろえてこゝろのなきをこゝろとはせよ  
28 とにかくに心はまよふものなれば南無阿弥陀仏ぞ西へゆくみち  
29 念仏にもをのがこゝろをひかすれば身をせめたまの露としら  
ずや  
30 すみすまぬこゝろは水の泡なれば消たる色やむらさきの雲  
31 弥陀の名にかすまぬ空の花ちりてこゝろまどはぬ身とぞなり  
ぬる  
32 仏こそ命と身とのあるじなれわが我ならぬこゝろ振舞  
33 ほとゝぎすなのるもきくもうたゝねの夢うつゝよりほかのひ  
と声  
34 うつゝとて待えて見れば夢となるきのふにけふなおもひあは  
せそ  
35 須弥の峰たかしひきしの雲きえて月のひかりや空のつちくれ  
36 をのづから相あふ時もわかれてもひとりはいつもひとりなり  
けり  
37 ひさかたの空にはそらの色もなし月こそつきのひかりなりけれ  
38 かくしつゝ野原の草の風の間にいくたび露を結び来ぬらん  
39 ひとりたゞほとけの御名やたどるらんをのゝかへる法の場  
人

- 40 おもひとけば過にしかたも行末も一むすびなるゆめの世の中  
 41 夢の世とおもひなしなば飯のよにとまる心のとまるべきやは  
 42 はきもの、物ぐさげにはみゆれどもいそぐところそみちびき  
 はせめ  
 43 開べきこゝろの花の身のためにつばみ笠きることをこそいへ  
 44 袈裟の地にをくれば頓て柿ばかましぶの弟子ともたのみける  
 哉  
 45 つまばつめとまらぬ年も降雪に消のこるべきわが身ならねば  
 46 津の国のなにはの浦をいでしよりよしあしもなき里にこそすめ  
 47 うちなびく一もとす、きほのぐと見たがへてこそよしあし  
 といへ  
 48 ながき夜も夢も跡なし六の字を名のるばかりぞいまの一声  
 49 われとおもふ人の心にひかれつゝをのれとおふる草木だになし  
 50 おもふことなくて過にしむかしさへしのべばいまの歎とぞなる  
 51 いにしへはこゝろのまゝにしたがひぬ今はこゝろよ我にした  
 がへ  
 52 いまははや見え見え見もせず色はいろいろなるいろぞ色はいろ  
 なる  
 53 いつまでも出入人の息あらば弥陀の御法の風はたえせじ  
 54 となふれば仏もわれもなかりけり南無阿弥陀仏の声ばかりして
- 55 となふれば仏もわれもなかりけり南無阿弥陀仏なむあみだ仏  
 56 いはじたゞこと葉の道をすぐぐとひとのこゝろの行こともなし  
 57 書うつす山は高根の雲きえてふでもおよばぬ月ぞ澄ける  
 58 よにふればやがて消ゆく淡雪の身にしられたる春の空かな  
 59 とにかくにまよふ心をするべにて南無阿弥陀仏と申ばかりぞ  
 60 おもふこと皆つきはてぬうしとみし世をばさながら秋のはつ風  
 61 消やすきいのちは水のあはぢしまやまのはながら月ぞさびしき  
 62 主なき弥陀の御名にぞ生れけるとなへすてたる跡の一声  
 63 名にかなふこゝろは西にうつせみのもぬけはてたる声ぞ涼しき  
 64 旅ごろも木の根かやの根いづくにか身の捨られぬ処あるべき  
 65 阿弥陀仏はまよひ悟の道たえてたゞ名にかなふいき仏なり  
 66 南無阿弥陀仏ほとけの御名のいづる息いらば蓮の身とぞなる  
 べき

和歌語彙総索引篇

あき(秋)	あ	あき(秋)	あ	あき(秋)	あ
秋		秋		秋	
あし(悪) ↓よしあし		あし(悪)		あし(悪)	
あし(悪)		あし(悪)		あし(悪)	
あしかりけりと	1	あしかりけりと	1	あしかりけりと	1
あた(怨)		あた(怨)		あた(怨)	
怨	27	怨	27	怨	27
あと(跡)		あと(跡)		あと(跡)	
跡	2・48・62	跡	2・48・62	跡	2・48・62
あはぢしま(淡路嶋)		あはぢしま(淡路嶋)		あはぢしま(淡路嶋)	
あはぢしま	61	あはぢしま	61	あはぢしま	61
あはす(会) ↓おもひあはす		あはす(会) ↓おもひあはす		あはす(会) ↓おもひあはす	
あはゆき(淡雪)		あはゆき(淡雪)		あはゆき(淡雪)	
淡雪	58	淡雪	58	淡雪	58
あはれ(哀)(感)		あはれ(哀)(感)		あはれ(哀)(感)	
あはれ	13	あはれ	13	あはれ	13
あひ(相) ↓あひあふ		あひ(相) ↓あひあふ		あひ(相) ↓あひあふ	
あひあふ(相逢)		あひあふ(相逢)		あひあふ(相逢)	
相あふ時	36	相あふ時	36	相あふ時	36
あふ(逢) ↓あひあふ		あふ(逢) ↓あひあふ		あふ(逢) ↓あひあふ	
あまのはら(天原)		あまのはら(天原)		あまのはら(天原)	
あまのはら	4	あまのはら	4	あまのはら	4
あみだぶつ(阿弥陀仏) ↓なむ		あみだぶつ(阿弥陀仏) ↓なむ		あみだぶつ(阿弥陀仏) ↓なむ	
あみだぶつ	65	あみだぶつ	65	あみだぶつ	65
阿弥陀仏		阿弥陀仏		阿弥陀仏	
あめ(雨)		あめ(雨)		あめ(雨)	
雨	3	雨	3	雨	3
あらそふ(争)		あらそふ(争)		あらそふ(争)	
あらそふころ	2	あらそふころ	2	あらそふころ	2
あり(在) ↓ことありがほ		あり(在) ↓ことありがほ		あり(在) ↓ことありがほ	
あらば	53	あらば	53	あらば	53
有とは	20	有とは	20	有とは	20
あるべき	64	あるべき	64	あるべき	64
あれ(「こそ」の結び)	15	あれ(「こそ」の結び)	15	あれ(「こそ」の結び)	15
あるじ(主)		あるじ(主)		あるじ(主)	
あるじ	32	あるじ	32	あるじ	32
主	62	主	62	主	62
あわ(泡) ↓みづのあわ		あわ(泡) ↓みづのあわ		あわ(泡) ↓みづのあわ	
い		い		い	
いかなる(如何)		いかなる(如何)		いかなる(如何)	
いかなるものと	22	いかなるものと	22	いかなるものと	22
いき(息)		いき(息)		いき(息)	
息	53・66	息	53・66	息	53・66
いきぼとけ(生仏)		いきぼとけ(生仏)		いきぼとけ(生仏)	
いき仏	65	いき仏	65	いき仏	65
いく(行) ↓ゆく		いく(行) ↓ゆく		いく(行) ↓ゆく	
いくたび(幾度)		いくたび(幾度)		いくたび(幾度)	
いくたび	38	いくたび	38	いくたび	38
いくの(生野)		いくの(生野)		いくの(生野)	
いく野	24	いく野	24	いく野	24
いそいそと(副詞)		いそいそと(副詞)		いそいそと(副詞)	
いそくと	42	いそくと	42	いそくと	42
いづ(出)		いづ(出)		いづ(出)	
いでしより	46	いでしより	46	いでしより	46
いづる息	66	いづる息	66	いづる息	66
いづく(何処)		いづく(何処)		いづく(何処)	
いづく	64	いづく	64	いづく	64
いつまでも(何時)		いつまでも(何時)		いつまでも(何時)	
いつまでも	53	いつまでも	53	いつまでも	53
いつも(何時)		いつも(何時)		いつも(何時)	
いつも	36	いつも	36	いつも	36
いでいる(出入)		いでいる(出入)		いでいる(出入)	
出入人の	53	出入人の	53	出入人の	53
いとふ(厭)		いとふ(厭)		いとふ(厭)	
いとふ人	3	いとふ人	3	いとふ人	3
いにしへ(古)		いにしへ(古)		いにしへ(古)	
いにしへ	51	いにしへ	51	いにしへ	51
いのち(命)		いのち(命)		いのち(命)	
命	32	命	32	命	32
いのち	61	いのち	61	いのち	61
いふ(言)		いふ(言)		いふ(言)	
いはじ		いはじ		いはじ	
いへ(「こそ」の結び)		いへ(「こそ」の結び)		いへ(「こそ」の結び)	
いま(今)		いま(今)		いま(今)	
いま	48・50・52	いま	48・50・52	いま	48・50・52
今	9・51	今	9・51	今	9・51
いる(入) ↓いでいる		いる(入) ↓いでいる		いる(入) ↓いでいる	
いらば	66	いらば	66	いらば	66
いろ(色)		いろ(色)		いろ(色)	
いろ	11・15・52・52	いろ	11・15・52・52	いろ	11・15・52・52
色	30・37・52・52	色	30・37・52・52	色	30・37・52・52
いろいろし(色色)		いろいろし(色色)		いろいろし(色色)	
色々しきに	21	色々しきに	21	色々しきに	21
う(得) ↓こころう・まちょう		う(得) ↓こころう・まちょう		う(得) ↓こころう・まちょう	
えんと	18	えんと	18	えんと	18
うきよ(浮世)		うきよ(浮世)		うきよ(浮世)	
うき世	21	うき世	21	うき世	21
うし(憂)		うし(憂)		うし(憂)	
うしと	60	うしと	60	うしと	60
うたたね(転寝)		うたたね(転寝)		うたたね(転寝)	
うたゝね	33	うたゝね	33	うたゝね	33
うちなびく(打靡)		うちなびく(打靡)		うちなびく(打靡)	

うちなびく	47	をのづから	36	およばぬ	57	かぜのま(風間)	38
うつす(写) ↓かきうつす		おのれ(己)				風の間	
うつせみの(空蟬)		おのれ	4			かた(方)	
うつせみの	63	をのれ	10・25・49	か(助詞) ↓ものかは	64	かた	40
うつつ(想)		おふ(生)		にか		かたる(語)	
うつ、	33・34	おふる	49	をか	7	かたるべき	9
うへ(上)		おほえやま(大江山)		が(助詞) ↓おのが		かち(徒)	
うへ	3	大江山	24	かきうつす(書写)		かち	23
上		おもひ(思)		書うつす	57	かな(助詞)	
うまる(生)		おもひ	8	かきばかま(柿袴)		かな	14・58
生れける	62	おもひあはす(思会)		柿ばかま	44	哉	44
うら(浦) ↓なにはのうら		おもひあはせそ	34	かく(斯) ↓とにかくに		かなふ(適)	
うれし(嬉)		おもひしる(思知)		かく	38	かなふこゝろ	63
うれしき(「ぞ」の結び)	17	おもひしるべし	1	かくても(斯)	17	かなふいき仏	65
		おもひしれ	21	かくても		かは(複合助詞) ↓ものかは	
		おもひとく(思解)		かげ(影) ↓つきかげ		かは(皮)	
おく(奥)		おもひとけ	40	かけひ(懸樋)		皮	15
おく	26	おもひなす(思成)		かけひ	13	かはく(乾)	
おくる(送)		おもひなしな	41	かさ(笠)		かはく袖	3
をくれば	44	思ひなすこゝろ	26	笠	43	かばね(屍)	
おのおの(己己)		おもふ(思)		かすむ(霞)		かばね	6
をのゝ	39	思はざりけり	11	かすまぬ	31	かはる(変)	
おのが(己)		おもふ人	49	かすむものかは	4	かはるひとかた	15
をのが	29	おもふこと	50・60	かぜ(風) ↓はつかぜ	53	かへる(帰)	39
おのづから(自)		およぶ(及)		風		かへる法の場人	

[illegible]

こと	43・50・56・60	さはり	2	しら川のせき	5	捨ぬならひ	20
ことありがほ (事有顔)		さびし (淋)		しる (知) ↓おもひしる		かすまぬ空	31
ことありがほ	26	さびしき (『ぞ』の結び)	61	しらねども	22	まどはぬ身	31
ことのは (言葉)		さへ (助詞)		しらずや	29	すみすまぬこゝろ	30
ことの葉	1	さへ	50	しられたる	58	我ならぬこゝろ振舞	32
ことば (言葉)				しる (『ぞ』の結び)	16	とまらぬ年	45
こと葉	56			しる人	9・16	およばぬ月	57
こま (駒) ↓こころこま		じ (助動詞)		しるべ (知)		捨られぬ処	64
ことわり (理)		じ	5・53・56	しるべ	59	へだてねば	12
ことほり	10	じ (字) ↓ろくのじ				しらねども	22
ころも (衣) ↓たびごろも		したがふ (従・順)	51			わが身ならねば	45
こゑ (声)		したがひぬ	51	す (動詞)		すぐ (過)	
声	54・63	したがへ		せめ	42	過にし	40・50
		しづむ (沈)	25	せず	52	すぐすぐと (副)	
さく (咲)		しづめけり		せじ	53	すぐくと	56
さけばさき	10	しのぶ (忍)		しつゝ	38	すすき (薄)	
さけばさき	10	しばし (副)	50	して	54	すすき	47
さと (里)		しばし	6	せよ	27	すすし (涼)	
里		しぶのでし (四部弟子)		ず (助動詞)		涼しき	63
さと (悟)	46	しぶの弟子		見えす	52	すつ (捨) ↓となへすつ	
悟		しま (嶋) ↓あはぢしま	44	身もせず	52	すてぬ	7
さながら (然)	65	しゆみのみね (須弥峰)		しらずや	29	捨ぬならひ	20
さながら		須弥の峰		思はざりけり	11	捨られぬ	64
さはり (障)	60	しらかはのせき (白川関)	35	朽ぬほど	6	すてつれば	8
				すてぬ人	7	捨てけり	14



捨てこそ	20	せめたま	29	たがふ(違) ↓みたがふ		ち(地) ↓けさのち	
すつる我身	7			ただ(副詞)		ちかひ(誓)	
すつる	8	そ		たゞ	39・56・65	ちかひ	5
すつる心	8	そ(助詞)		たつ(立)		ちかひのふね(誓舟)	
すつるも	20	けぶりなてそ	4	なたてそ	4	ちかひの舟	23
すてやる(捨遣)		けふなおもひあはせそ	34	たどる(辿)		ちる(散)	
すてやらで	19	ぞ(助詞)	16	たどるらん	39	ちりて	31
すみ(須弥) ↓しゆみ		ぞ		だに(助詞)		ちるは	10
すみぞめ(墨染)	21		17・22・28・31・48	だに	49	散はな	10
すみぞめ			50・52・57・59・61	たのむ(頼)			
すみぞめのそで(墨染袖)	8	そで(袖) ↓すみぞめのそで	62・63・66	たのみける哉	44		
すみ染の袖		袖	3	たびごろも(旅衣)	64	つ(助動詞)	
すむ(澄)				旅ごろも		捨てけり	14
すみすまぬ	30	ぞめ(染) ↓すみぞめ・すみぞ		たま(珠) ↓せめたま		すてつれば	8
すみすまぬ	30	めのそで		ため(為)		つき(月)	
澄ける	57	そら(空)		ため	43	月	
すむ(住)		空		たゆ(絶)		つき	2・11・35
すまれける	19		12・31・35	たえせじ	53	つきかけ(月影)	
すめ(「こそ」の結び)	46	そら	37	たえて	65	つきはつ(月影)	37
				たり(助動詞)		月かけ	
				たる	30・58・62・63	つきはつ(尽果)	12
せき(関) ↓しらかはのせき		たかし(高)		たれ(誰)		つきはてぬ	
せきとむ(塞止)		たかし	35	たれ	7	つち(土)	60
せきとめて		たかね(高根)				土	6
せめたま(逼珠)	25	高根	57				

つちくれ (土塊)	35	て (助詞)	と	となふ (唱)	3	な (終助詞)	24
つちくれ		すてやらで		となふれば	34	おしむなよ	
つつ (動詞)	38	でし (弟子) ↓しぶのでし		となへすつ (唱捨)	22	なか (中) ↓よのなか	21
つゝ	49			となへすてたる	55	中	21
つのくに (津の国)				とにかくに (副詞)	62	ながし (長)	21
つの国	1			とにかくに (副詞)	59	ながき夜	48
津の国	46			とに (止)		なかな (副詞)	2
つひに (終)	14			とまる (止)	45	ながく	2
つゐに				とまるぬ	41	ながむ (眺)	11
つぼみ (蓄)	43			とまるべき	41	ながむれば	
つぼみ				とまる心	41	ながら (助詞)	61
つむ (摘)	45			とむ (留)	5	ながら	
つまばつめ	45			とむれ (「こそ」の結び)	17	ながる (流) ↓ながれゆく	25
つまばつめ				とも (副詞)	42	ながるゝ水	13
つゆ (露)	24			ともはねよ	22	ながれゆく (流行)	50
露	29			ども (助詞)	42	ながき (歎)	19
	38			ども	5	なげく (歎)	26
て (助詞)				な (名) ↓みな	22	なげく (歎)	24
て				名	5	歎きけり	19
				とき (時)	22	なし (無) ↓くもりなし	26
				時	36	なかりける	54
				とく (解) ↓おもひとく	36	なかりけり	55
				ところ (処)	64	なくて	50
てこそ	47			な (副詞)	4	なし	37
ても	36			なたてそ	34		
				けふなおもひあはせそ	34		

なす(成) ↓おもひなす	48・49・56	9・27・46・62	2・8	8	48	49	56
なには(難波)							
なには	1						
なにはのうら(難波浦)							
なにはの浦	46						
なのる(名告)							
なのるも	33						
名のるばかりぞ	48						
なびく(靡) ↓うちなびく							
なむあみだぶつ(南無阿弥陀仏)							
南無阿弥陀仏	55・59・66	28・54・					
なむあみだ仏	55						
ならひ(習)							
ならひ	20						
なり(助動詞)							
我ならぬ	32						
わが身ならねば	45						
こゝろ成けり	18						
ひとりなりけり	36						
ひかりなりけれ	37						
いき仏なり	65						
水の上なるあはれ	13						
一むすびなるゆめ	40						
いろなるいろ	52						
いろなる(「ぞ」の結び)	52						
夢なれば	7						
まよふものなれば	28						
泡なれば	30						
あるじなれ(「こそ」の結び)	32						
なる(成)(動詞)							
成にけれ	10						
なりぬる	31						
なるべき	66						
なるけぶり	4						
なるきのふ	34						
なる(「ぞ」の結び)	22・						
なれ(「こそ」の結び)	2						
に(助詞)(格助詞)							
に	2						
ぬ(助動詞)							
おもひなしなば	41						
成にけれ	10						
過にしむかし	50						
結び来ぬらん	38						
したかひぬ	51						
つきはてぬ	60						
身とぞなりぬる	31						
ぬる(濡)							
ぬれ	3						
ぬるれば	3						
ね(根) ↓かやのね・きのね							
ねむぶつ(念仏)							
念仏	29						
の(助詞) ↓うつせみの・かや							
のね・かぜのま・かりのよ・き							
のね・けさのぢ・ことのほ・し							
ぶのでし・しゆみのみね・し							
らかはのせき・すみぞめのそ							
で・ちかひのふね・つのくに・							
なにはのうら・のりのみち・ひ							
さかたの・みづのあわ・やま							
のは・よのなか・ろくのじの							
の	1・2・3・5						
6・6・9・10							
13・13・14・15							
16・17・21・21							
24・24・26・27							
27・29・30・30							
31・31・33・33							
35・35・35・37							

法の道	のりのみち (法道)	のり (法) ↓みのり	野原	野はら	のはら (野原)	のこる (残) ↓きえのこる	のこりゐる (残居)	野	の (野) ↓いくの	ゝ (の)	との
23	16	1	14	6		9	19	42	32	66	37
		39	38							64	38
										65	38
										66	38
										66	38

は (助詞) ↓かは	は	は (端) ↓やまのは	は (葉) ↓ことのは	ば (動詞)	や	を	に	と	の	の (乗)	のれや
1	10	10	3		22	13	15	2	63	23	
4	10	11	3		27	16	37	20	65		
4	11	23	7		60	19	42	27	57		
6	11	26			41				61		

はねばはね	はぬ (跳)	花	はな	はな (花)	はて	はて (果)	はつ (果) ↓つきはつ	はつ風	はつかぜ (初風)	蓮	はちす (蓮)	はきもの (履物)	ばかり (助詞)	はかなき (「ぞ」の結び)	はかなしや	はかなし (夢)	法の場人	ば (場)
16		11	10	9	63	60	66	42	59	3	6	14	39					
	43	31		14														

はねばはね	はねる	はら (原) ↓のはら	はや (早)	はや	はる (春)	春	はるこま (春駒)	春駒	ひかす (引)	ひかすれば	ひかり (光)	ひかり	ひかる (引)	ひかれつ	ひくし (低)	ひきしの	ひさかたの (久方) (枕詞)	ひと (人) ↓みなひと・もろひと	人
16	16				52	58	16		11	29	37	37	49	35	37	37	37	7	39
									35										
									35										
									35										

ひと	56	ふれば	3・58	ほね(骨)	15	みだ(弥陀)	43・25・29・31・32
ひとかた(人形)		ふるまひ(振舞) ↓ ころふる		骨		弥陀	5・17・31
ひとかた	15	まひ		ほのほのと(副詞)	47	みたがふ(見違)	53・62
ひとこゑ(一声)		へ		ほのぐと		見たがへてこそ	
ひと声	33	へ(助詞)				みち(道) ↓ のりのみち	
一声	48・62	へ		ま		みち	28
ひとひも(一本)		へ		ま(間) ↓ かぜのま	59	道	56・65
一もと	47	べし(助動詞)	28	まうす(申)		みちびき(導)	
ひとむすび(一結)		べかりけれ	20	申ばかり		みちびき	42
一むすび	40	べし	1	まちう(待得)	34	みづ(水)	13・25・61
ひとり(一人)		べき	41	待えて		みづのあわ(水泡)	30
ひとり	36・36・39	へだつ(隔)	66	まで(助詞) ↓ いつまでも		水	61
ひらく(開)		へだてねば	12	まどふ(迷) ↓ ころまどふ		水の泡	
開べき	43			まに(助詞)	51	みな(御名)	39・62・66
				まゝに		御名	
				まよひ(迷)	65	みな(皆)	60
ふく(更)		ほか(外)		まよふ(迷)		みなひと(皆人)	26
ふくる月かけ	12	ほか	33	まよふころ	18・21・24	みな人	
ふち(淵)		ほど(程)		まよふもの	28	みね(峰) ↓ しゆみのみね	
淵	25	ほど	6	まよふ心	59	みのり(御法)	17・53
ふで(筆)		ほとけ(仏) ↓ いきほとけ	66			御法	
ふで	57	ほとけ	32・54・55	み(身) ↓ わがみ	8・10・19・24		
ふね(舟) ↓ ちかひのふね		仏	66	み			
ふる(降)	45	ほととぎす(時鳥)	33	身			
降雪		ほとゝぎす					



わかれ	我	われ(我)	わかる(別)	わかれても	わが身	わがみ(我身)	わが(我)	わが	ろくのじ(六字)	六の字	ろ	る(助動詞)	すまれける	しられたる	る(助動詞)	捨られぬ	る(助動詞)	たどるらん	来ぬらん
49	32				7														
54	51				45		32		48				58	19		64	39	38	
55			36																
をんな(女)	をどれ	踊らば	をどる(踊)	おとこ	をどこ(男)	をしむ(情)	おしむなよ	おしめども	をば	をか	をこそ	を	を	を	を(助詞)	を	ある(居)	る	
																	↓のこりある		
	16								22				46	27	22	18	8	3	
									27	13			48	29	24	19	9	5	
									60	16			56	29	25	20	9	7	
15	17	16	15	14	24				19	7	43	59	38	25	21	11	8		